

第2節

子どもの1週間のメディア活用状況

乳幼児が1週間にメディアに接する頻度は、テレビ番組は1歳で91.0%、ビデオ・DVDは3歳で47.5%が「ほとんど毎日」だった。スマートフォンは2～3歳で接する頻度が高く、母親がスマートフォンを使用している2歳児の2割以上が、「ほとんど毎日」スマートフォンに接していた。ゲーム機は年齢があがるにつれて、接する頻度が高くなっていった。

●テレビ番組は1歳で91.0%、ビデオ・DVDは3歳で47.5%がほとんど毎日みている

乳幼児は、メディアを1週間にどのくらいの頻度でみたり使ったりしているのだろうか。この点について、子どもの年齢別にみたのが、図1-2-1～1-2-6である。

「テレビ番組（録画を含む）」（図1-2-1）は、「ほとんど毎日」が0歳後半で55.0%と半数を超え、1歳以降はほぼ9割だった。テレビ番組は乳幼児の生活に広く親しまれていることがうかがえる。また、「録画を含む」としていることから、放送時間に限らず録画した番組を視聴したり、機器としてテレビに限らず、パソコンやモバイルメディアを通して視聴したりするなど、さまざまな時間や手段で視聴されている可能性がある。

「ビデオ・DVD」（図1-2-2）は、1歳以降で「ほとんど毎日」「週に3～4日」「週に1～2日」「ごくたまに」にそれぞれ頻度が分散していた。そのなかで、「ほとんど毎日」をみると2～3歳がもっとも多く、2歳43.6%、3歳47.5%だった。「第3回幼児の生活アンケート」（ベネッセ教育総合研究所、2005）でも同様の傾向がみられた。今回の調査では2～3歳は未就園が5～6割、4歳以降は就園率が9割を超えていた。2～3歳では親子が一緒にいる時間が長くなり、みる頻度も高くなると思われる。

●スマートフォンは2～3歳で、ゲーム機は年齢があがるにつれて、接する頻度が高い

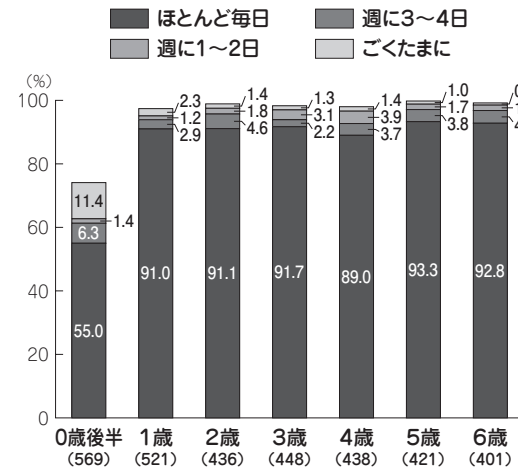
新しいメディアはどうだろうか。メディアを所有する家庭と所有しない家庭があるが、まずは全体での頻度をみよう。

「タブレット端末」（図1-2-3）は、「ほとんど毎日」から「ごくたまに」を合わせても3歳以降で約2割だった。「スマートフォン」（図1-2-4）は、「ほとんど毎日」から「ごくたまに」を合わせて、0歳後半11.2%、1歳36.3%、2歳47.6%、3歳52.2%、4歳50.1%、5歳46.8%、6歳46.8%と2歳以降で4割以上がふれていた。

「ほとんど毎日」をみると2～3歳がもっとも多く、2歳13.8%、3歳14.7%だった。背景として、ビデオ・DVDと同様、2～3歳では親子が一緒にいる時間が長く、接する頻度も高くなると思われる。

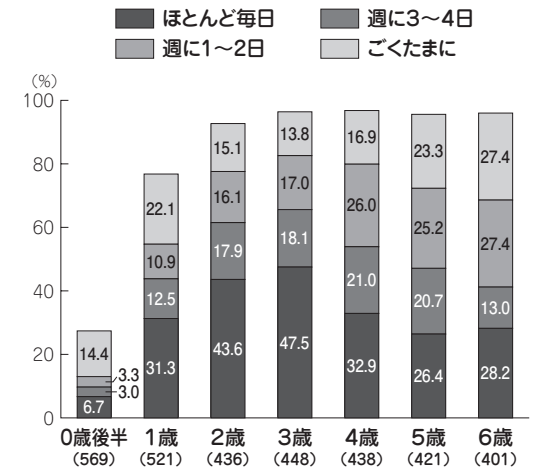
ゲーム機についても、所有する家庭と所有しない家庭があるが、全体での頻度をみておきたい。「ほとんど毎日」から「ごくたまに」を合わせると「据え置き型ゲーム機」（図1-2-5）は、0歳後半0.9%、1歳1.5%、2歳3.7%、3歳7.7%、4歳17.2%、5歳26.4%、6歳32.4%であり、「携帯型ゲーム機」（図1-2-6）は、0歳後半1.5%、1歳2.7%、2歳7.4%、3歳9.8%、4歳19.1%、5歳27.3%、6歳37.1%と、ともに子どもの年齢があがるにつれて増えていった。

図1-2-1 テレビ番組（録画を含む）



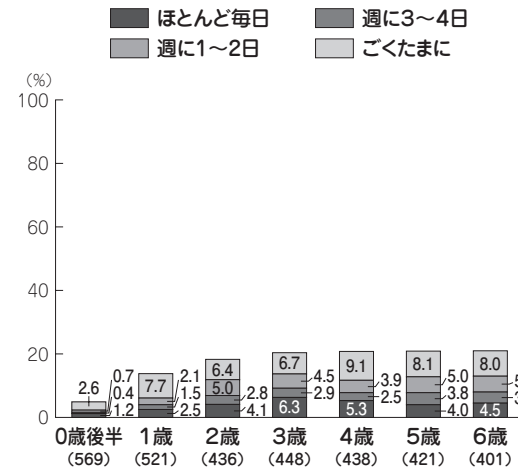
注) ()内はサンプル数。

図1-2-2 ビデオ・DVD



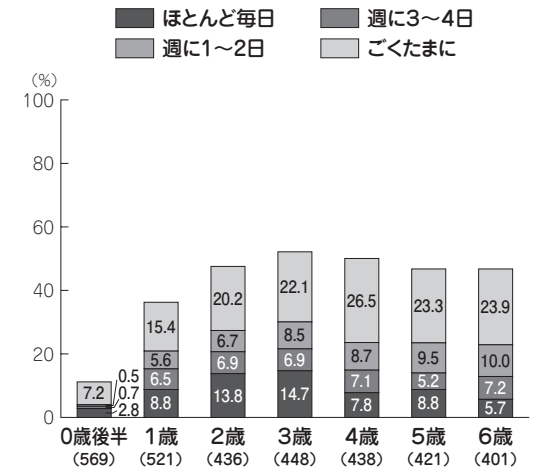
注) ()内はサンプル数。

図1-2-3 タブレット端末



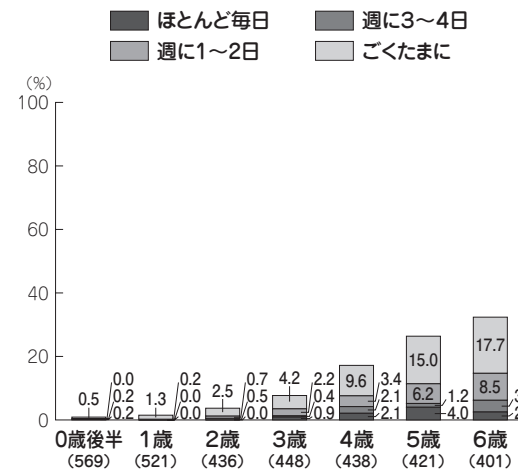
注) ()内はサンプル数。

図1-2-4 スマートフォン



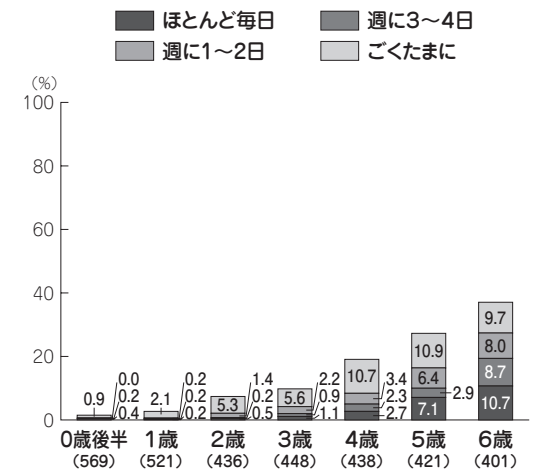
注) ()内はサンプル数。

図1-2-5 据え置き型ゲーム機



注) ()内はサンプル数。

図1-2-6 携帯型ゲーム機



注) ()内はサンプル数。

しかし、「据え置き型ゲーム機」はいずれの年齢でも「ごくたまに」の比率が多いのに対して、「携帯型ゲーム機」は子どもの年齢があがると「ほとんど毎日」の比率が増えていた。第1節でみたように、「携帯型ゲーム機」は子どもの年齢があがると子ども専用も増えるため、接触頻度が増える可能性が考えられる。

●母親がスマートフォンを使用している2歳児の2割以上が、「ほとんど毎日」スマートフォンに接している

メディアを所有する家庭に限定して、子どもの1週間の接触頻度をみよう。ここでは、「タブレット端末」「スマートフォン」「携帯型ゲーム機」について紹介したい。

「タブレット端末」(図1-2-7)では、「ほとんど毎日」から「週に1~2日」を合わせて、0歳後半7.9%、1歳22.4%、2歳39.9%、3歳42.1%、4歳39.3%、5歳43.9%、6歳46.8%であり、「ほとんど毎日」をみると3歳19.3%、4歳17.7%だった。「スマートフォン」(図1-2-8)では、母親が使用している場合に限定すると、「ほとんど毎日」から「週に1~2日」を合わせて、0歳後半5.8%、1歳29.1%、2歳42.3%、3歳44.8%、4歳35.1%、5歳36.9%、6歳

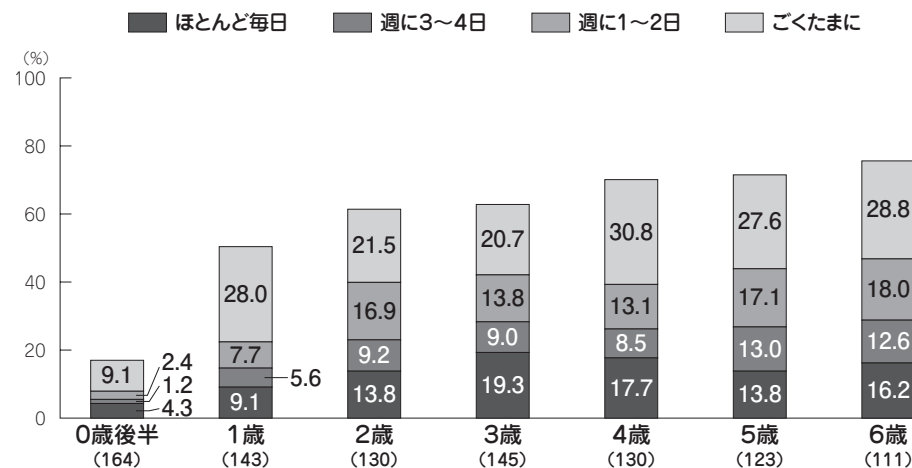
40.1%であり、「ほとんど毎日」をみると2歳22.1%、3歳21.6%で2割を超えていた。

「携帯型ゲーム機」(図1-2-9)をみると、「ほとんど毎日」から「週に1~2日」を合わせて、0歳後半0.9%、1歳1.2%、2歳4.2%、3歳9.3%、4歳18.1%、5歳35.6%、6歳57.8%と、子どもの年齢があがるにつれて増えて、とくに4歳以降で急激に増えていた。「ほとんど毎日」をみると5歳15.5%、6歳22.6%だった。

●今後、乳幼児の生活で新しいメディアに使い分けは発生していくか

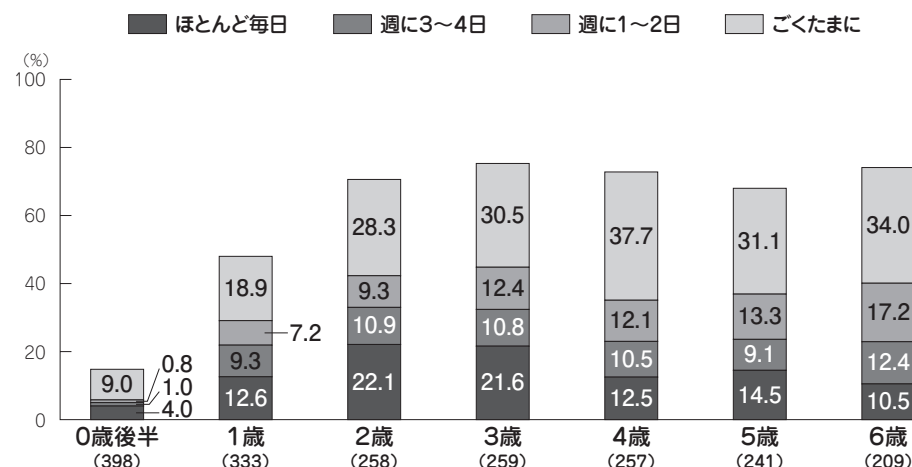
今回の調査では、母親や家族がメディアをもっている場合、「スマートフォン」は2~3歳で「ほとんど毎日」ふれる頻度がやや高く、「タブレット端末」は3歳以降でふれる頻度がやや高い傾向がみられた。「スマートフォン」と「タブレット端末」では、機器の重さや大きさが異なる。慎重な考察が必要だが、子どもの年齢と機器の要件によって、いつ、どこで、どのような目的でどのような内容のアプリ・ソフトを子どもに使わせようと保護者が考えるかが関係していよう。乳幼児の生活で新しいメディアにどのような使い分けが発生していくか、メディアの普及とともにさらなる調査研究を待ちたい。

図1-2-7 家族がタブレット端末所有の場合の子どもの1週間のタブレット端末使用率



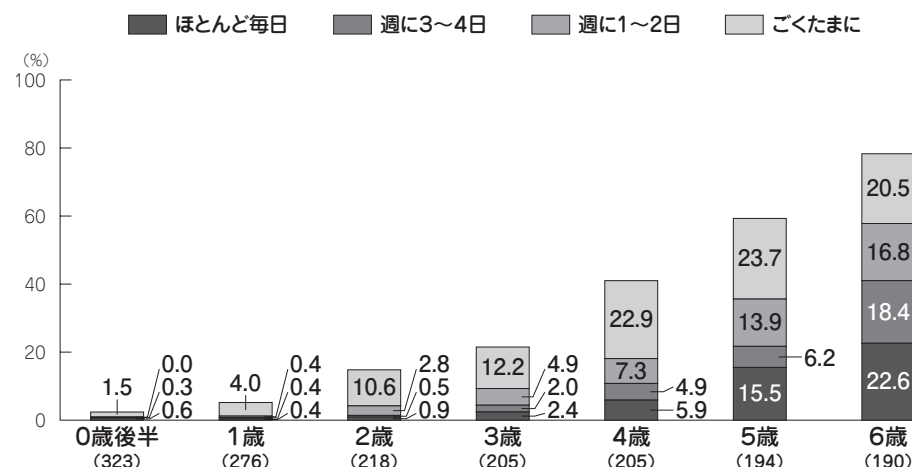
注()内はサンプル数。

図1-2-8 母親がスマートフォンを使っている場合の子どもの1週間のスマートフォン使用率



注()内はサンプル数。

図1-2-9 家族が携帯型ゲーム機所有の場合の子どもの1週間の携帯型ゲーム機使用率



注()内はサンプル数。